

科目名	観光研究ゼミナール	科目コード	1234	単位数	2
担当者名	伊藤 寛幸	開講semester	第5semester	開講年次	3年次
授業の方法	演習	実務経験	無		

● 授業のねらい

当ゼミでは、「コンテンツツーリズム」を探究の客体としてとらえ、学際的アプローチによって作品における「舞台」の観光資源化について学ぶ。映画、テレビ、小説などの“舞台”が観光の対象として注目されている今日、文化、芸術を通じて「観光」に関する総合的思考力を錬成する。具体的には、課題図書の輪読を通して「コンテンツツーリズム」を理解する。さらに、自身の興味から研究対象を探る方策を修得する。加えて、他者を説得するプレゼンテーション技能も得とくする。修得した知識および技能によって、自ら課題を発見し解決する能力を身につけることをねらいとする。

● 到達目標

- 報告と討議によって以下の点を目指す。
- 1.自己の興味を学際的に発展させることができる。
 - 2.自己の意思を他者へ伝達することができる。
 - 3.クリティカルリーディング力によって、主体的かつ批判的に読書活動することができる。
 - 4.円滑なコミュニケーションを図ることができる。

● 授業内容

- 1週目 ゼミの進め方の説明、報告順の決定
- 2週目 映画の舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 3週目 映画の舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 4週目 テレビドラマの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 5週目 テレビドラマの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 6週目 小説の舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 7週目 小説の舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 8週目 アニメの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 9週目 アニメの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 10週目 ゲームの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 11週目 ゲームの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 12週目 ご当地ソングの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 13週目 ご当地ソングの舞台を訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 14週目 ご当地アイドルを訪ねる旅を想定した報告と討議（国内）
- 15週目 ご当地アイドルを訪ねる旅を想定した報告と討議（海外）
- 16週目 ゼミ全般に対する講評。ただし、やむを得ず15週目までの講義が実行できなかった場合に補講授業を実施。

● 準備学習(予習・復習)等の内容

- ・日常において観光に関連する情報に関心をよせ、社会動向を常時チェックすること。
- ・週3時間の予習復習を行うこと。予習復習については、講義中に指示する。
- ・事前にテキストを必ず読み込むこと。

● 成績評価の方法・基準

輪読における報告（プレゼンテーション）および参加貢献度40%、期末試験60%

● 履修上の留意点

- ・資料、データの単なる収集結果の一方的なアナウンスではなく、以下を必ず報告内容としたプレゼンテーションとすること。
- ・1.背景（動機） 2.対象作品の概要 3.舞台の解説 4.観光との関連 5.データ 6.将来の展開予測 7.感想 など。
- ・成績評価は、全講義の2/3以上出席した学生を対象とする。
- ・連絡はコースパワーを介して行うことがあるので、常時コースパワーを確認のこと。

● 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題（期末試験）については、コメントを付して結果（点数）を本人に通知するなどフィードバックを行う。

● テキスト

Takayoshi Yamamura, Philip Seaton. Contents Tourism and Pop Culture Fandom Transnational Tourist Experiences. Channel View Books, 2020. 20,138円

● 参考書

必要に応じて紹介する。

● 更新日付

2020/03/04 09:32